

突然の災害時にあなたができることは何ですか

お互いが助けあう 自主防災組織を作ろう



市は、昨年の岩手・宮城内陸地震の経験を踏まえ、自主防災組織の設立を推進しています。地震発生の日から一年が過ぎた今、地域でできる備えについて話し合ってみませんか。

災害時の救急活動

地震などの災害時には、安否の確認がその後の人命救助に大きくかわります。災害発生から24時間以内の救出は生存率が高いことが知られていますが、大規模災害では、平常時のように連絡手段が使えたり、すぐに救助が到着するとは限りません。被害を最小に抑えたくても、個人での救助や消火活動には限界があります。そんな時、地域住民が協力し合い、集団で活動する自主防災組織が必要になってくるのです。

自主防災組織の活動

自主防災組織は、「自分たちの地域は自分たちで守る」ことを目的に、隣近所の人たちが協力し防災活動に当たる組織です。組織の具体的な活動内容は、災害発生時の安否確認や救出・救護、初期消火、避難誘導などです。また、平常時には、情報伝達などの防災訓練、防災知識の普及、危険箇所の把握、防災機材の備蓄などを行います。実際に災害が起きたときには、訓練どおり冷静に行動し、「上手に避難・救助できる」ことが大切です。

市からの支援

市は、組織を立ち上げるに当たって必要となる規約、組織図、連絡系統図などの作成相談に応じています。設立された組織に

胆沢区南都田 14 部落の取り組み事例

棒とトレーナーの担架で搬送訓練を行いました



南都田 14 部落自主防災組織勉強会は 6 月 13 日、同部落振興会館で行われました。約 70 人が参加し、消火バケツリレーや倒壊物からの救出作業など、実戦さながらの訓練に取り組みました。この会を企画した小野寺俊男部落会長は、「消防団員も人数が限られている。阪神・淡路大震災でも地域の助け合いが大きな力となった。住民が持つ機材や、免許・資格なども災害時には重要な資源となる。自分が助けられる場合も想定して協力し合うことが大切」と話します。

地域にあるもので行った活動

消火バケツリレー、服を応用した担架の作成、倒壊物からの救出作業、血圧測定体験、チルホール取扱体験、子供たちの防火ポスター展示

消防署の支援で行った活動

緊急消防援助隊の DVD 鑑賞、住宅用火災警報器設置の啓発、煙の中での避難体験

は、有事に役立つ小型ハンドマイク、腕章、ヘルメットの交付も行っています。
この機会に地域で話し合い、お互い助け合う自主防災組織を

作ってみてはいかがでしょうか。
■問い合わせ先 本庁消防防災課
(内線 223)、各総合支所消防防災担当課